一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「鹿おどし」が動いているのを見ると、その愛嬌のなかに、なんとなく（1）人生のけだるさのようなものを感じることがある。かわいらしい竹のシーソーの（a）一端に水受けがついていて、それに筧の水が少しずつたまる。静かに緊張が高まりながら、やがて水受けがいっぱいになると、シーソーはぐらりと傾いて水をこぼす。（b）キンチョウが一気にとけて水受けが跳ね上がるとき、竹が石をたたいて、こおんと、くぐもった優しい音をたてるのである。

見ていると、単純な、ゆるやかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される。緊張が高まり、それが一気にほどけ、しかし何事も起こらない徒労がまた一から始められる。ただ、曇った音響が時を刻んで、庭の（c）セイジャクと時間の長さをいやがうえにも引き立てるだけである。水の流れなのか、時の流れなのか、「鹿おどし」は我々に流れるものを感じさせる。（2）それをせき止め、刻むことによって、この仕掛けはかえって流れてやまないものの存在を強調していると言える。

私はこの「鹿おどし」を、ニューヨークの大きな銀行の待合室で見たことがある。日本の古い文化がいろいろと紹介されるなかで、あの素朴な竹の響きが西洋人の心をひきつけたのかもしれない。だが、ニューヨークの銀行では人々はあまりに忙しすぎて、一つの音と次の音との長い（d）カンカクを聴くゆとりはなさそうであった。それよりも窓の外に噴き上げる華やかな噴水のほうが、ここでは水の芸術として明らかに人々の気持ちをくつろがせていた。

流れる水と、噴き上げる水。

そういえばヨーロッパでもアメリカでも、町の広場にはいたるところにみごとな噴水があった。ちょっと名のある庭園に行けば、（3）噴水はさまざまな趣向を凝らして風景の中心になっている。有名なローマ郊外のエステ家の別荘など、何百という噴水の群れが庭をぎっしりと埋め尽くしていた。樹木も草花もここでは添えものにすぎず、壮大な水の造型がとどろきながら林立しているのに私は息をのんだ。それは揺れ動くバロック彫刻さながらであり、ほとばしるというよりは、音をたてて空間に静止しているように見えた。

【　A　】的な水と、【　B　】的な水。

そういうことをふと考えさせるほど、日本の伝統のなかに噴水というものは少ない。せせらぎを作り、滝をかけ、池を掘って水を見ることはあれほど好んだ日本人が、噴水の美だけは近代に至るまで忘れていた。伝統は恐ろしいもので現代の都会でも、日本の噴水はやはり西洋のものほど美しくない。そのせいか東京でも大阪でも、町の広場はどことなく間が抜けて、表情に（e）乏しいのである。

西洋の空気は乾いていて、人々が噴き上げる水を求めたということもあるだろう。ローマ以来の水道の技術が、噴水を発達させるのに有利であったということも考えられる。だが、人工的な滝を作った（4）日本人が、噴水を作らなかった理由は、そういう外面的な事情ばかりではなかったように思われる。日本人にとって水は自然に流れる姿が美しいのであり、圧縮したりねじ曲げたり、粘土のように造型する対象ではなかったのであろう。

いうまでもなく、水にはそれ自体として定まった形はない。そうして、形がないということについて、（5）おそらく日本人は西洋人と違った独特の好みを持っていたのである。「【　X　】」という仏教的な言葉があるが、そういう思想はむしろ思想以前の感性によって裏づけられていた。それは外界に対する受動的な態度というよりは、積極的に、形なきものを恐れない心の現れではなかっただろうか。

見えない水と、目に見える水。

もし、流れを感じることだけが大切なのだとしたら、我々は水を実感するのに、もはや水を見る必要さえないと言える。ただ断続する音の響きを聞いて、その（f）カンゲキに流れるものを間接に心で味わえばよい。そう考えればあの「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞する行為の（g）極致を表す仕掛けだと言えるかもしれない。

問一　傍線部（a）～（g）について、カナカナは漢字に直し、漢字はひらがなに直せ。

問二　傍線部（1）「人生のけだるさのようなものを感じる」とあるが、「鹿おどし」のどのような点によるものか。「～点」とつながるように本文中から三十字以内、二十五字以内で二点抜き出せ。（「点」は字数に含まない）

問三　傍線部（2）「それをせき止め～流れてやまないものの存在を強調している」とあるが、「それ」とは、何をさすか。本文中から五字で抜き出しなさい。

問四　傍線部（3）「噴水はさまざまな趣向を凝らして風景の中心になっている」とあるが、「風景の中心」と対比的な意味で用いられている語句を、同じ形式段落の中から四字で抜き出しなさい。

問五　本文中の空欄A・Bに入る語として最も適当な組み合わせを次から一つ選べ。

ア　A　視覚　B　聴覚　　イ　A　積極　B　受動　　ウ　A　人工　B　自然

エ　A　時間　B　空間　　オ　A　独創　B　伝統

問六　傍線部（4）「日本人が、噴水を作らなかった理由は、そういう外面的な事情ばかりではなかった」とあるが、日本人が噴水を作らなかった外面的な事情とはどのようなことか。それぞれ三十字以内で二点挙げよ。

問七　傍線部（5）「おそらく日本人は西洋人と違った独特の好みを持っていた」とあるが、日本人と西洋人の好みはどのように異なるか。説明せよ。

問八　空欄Xに「空を行く雲や流れる水のように、自然のままに行動すること」という意味の四字熟語を書け。

問九　この文章の論の進め方の特徴について、適切なものを二つ選びなさい。

ア　抽象化を避け、一貫して具体的な事例に即して議論を展開している。

イ　具体例や比喩表現を活用し、イメージが伝わるように工夫している。

ウ　論理関係を示す接続詞を多用し、説得力のある議論を展開している。

エ　対比を効果的に用いることで、論じる対象の特徴を鮮明にしている。

オ　主観的な表現や断定的な表現を避け、極力客観的に記述している。

問十「鹿おどし」についての筆者の見解として適切なものを、次の中からすべて選びその番号を記せ。

ア　水の断続的な響きによって、通常眼に見えないあらゆるものの存在を感知させる。

イ　流れる水をリズムとして表現することにより、人生の有限と無常を感じさせる。

ウ　鹿おどしは断続する音の響きを聞き、その間隙を心で味わうことのできる仕掛けと言える。

エ　水の時間的・空間的存在性を、噴き上げる水に転化して実感させている。

オ　自然に流れる水の響きを、人為的な細工と見えないように造型している。

カ　定まったかたちのない水に、存在性のある空間的な形を与えている。

キ　音をとおして、水の時間性とともに流れるものを表現している。